

# 経済情勢

## (1月の経済指標を中心に)

全国、中国ともに、景気は、このところ弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。先行きについては、世界的な金融引き締めや中国経済の減速などを背景とした海外経済の下振れや、物価上昇などによる経済活動への影響が懸念される。

### (全国)

個人消費	持ち直しの動きに足踏みがみられる
住宅投資	新設住宅着工戸数（1月）は前年を下回った
設備投資	機械受注（1月）は前年を下回った
公共投資	公共工事請負額（1月）は前年を上回った
輸出	輸出金額（1月）は前年を上回った
生産動向	横ばい圏内ながら、一部に弱さがみられる
雇用情勢	改善の動きが弱まっている

### (中国)

個人消費	持ち直しの動きに足踏みがみられる
住宅投資	新設住宅着工戸数（1月）は前年を下回った
公共投資	公共工事請負額（1月）前年を上回った
輸出	輸出金額（1月）は前年を下回った
生産動向	横ばい圏内ながら、一部に弱さがみられる
雇用情勢	改善の動きが弱まっている

## 1. 景気動向指数・景気ウォッチャー調査(1月)

景気動向指数(全国C I)の一致指数は、2カ月ぶりに低下した。

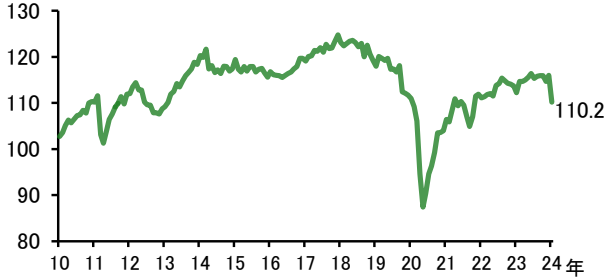
景気ウォッチャー調査(現状判断D I)は、全国、中国ともに2カ月ぶりに低下した。

### ● 景気動向指数(C I)

(一致指数)

・110.2(前月差▲5.8ポイント)と2カ月ぶりに低下。

(2020年=100)



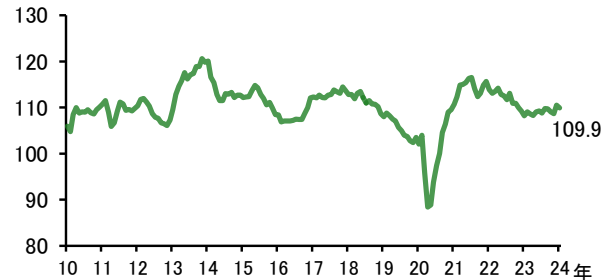
C I 一致指数(前月差) ▲5.8

指標名	寄与度
鉱工業用生産財出荷指数	▲1.25
鉱工業生産指数	▲1.23
耐久消費財出荷指数	▲1.18
投資財出荷指数(除輸送機械)	▲1.12
輸出数量指数	▲0.61
商業販売額(卸売業)	▲0.22
商業販売額(小売業)	▲0.16
有効求人倍率(除学卒)	▲0.02
労働投入量指数(調査産業計)	▲0.01
営業利益(全産業)	0.04

(先行指数)

・109.9(前月差▲0.6ポイント)と2カ月ぶりに低下。

(2020年=100)



C I 先行指数(前月差) ▲0.6

指標名	寄与度
最終需要財在庫率指数(逆)	▲0.65
鉱工業用生産財在庫率指数(逆)	▲0.60
新規求人数(除学卒)	▲0.21
新設住宅着工床面積	▲0.10
日経商品指数(42種総合)	0.05
マネーストック(M2)	0.11
中小企業売上げ見通しD I	0.13
消費者態度指数	0.32
東証株価指数	0.40
実質機械受注(製造業)	
投資環境指数(製造業)	

注:1. 景気動向指数(CI)は景気変動の大きさやテンポ(量感)を測定することを目的としている。資料は内閣府「景気動向指数(速報)」。

2. 景気動向指数とは、生産、雇用など重要な景気に敏感な指標の動きを統合することによって、景気の現状把握および将来予測に資するために作成されたもので、景気に対し先行して動く先行指数、ほぼ一致して動く一致指数、遅れて動く遅行指数の3本の指数がある。

### ● 景気ウォッチャー調査(D I)

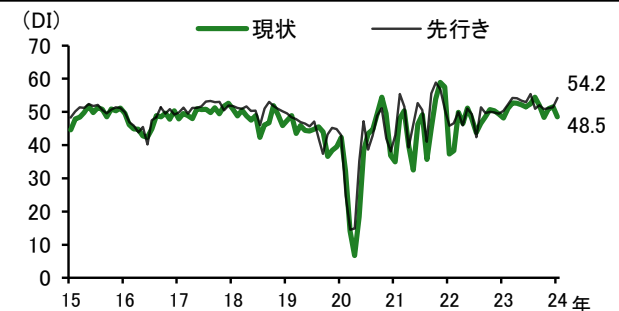
(全国)

・現状判断D Iは、50.2(前月差▲1.6ポイント)と4カ月ぶりに低下。  
・先行き判断D Iは、52.5(前月差+2.1ポイント)と3カ月連続で上昇。



(中国)

・現状判断D Iは、48.5(前月差▲3.0ポイント)と3カ月ぶりに低下。  
・先行き判断D Iは、54.2(前月差+2.8ポイント)と3カ月連続で上昇。



注:1. 景気ウォッチャー調査は、地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域ごとの景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とすることを目的としている。資料は内閣府「景気ウォッチャー調査」。

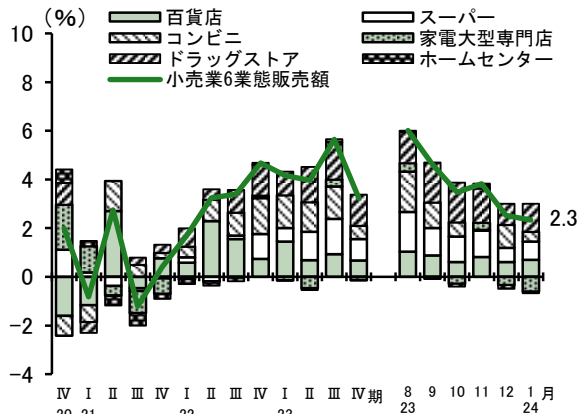
2. 季節調整値

## 2. 個人消費（1月）

全国、中国ともに、持ち直しの動きに足踏みがみられる。

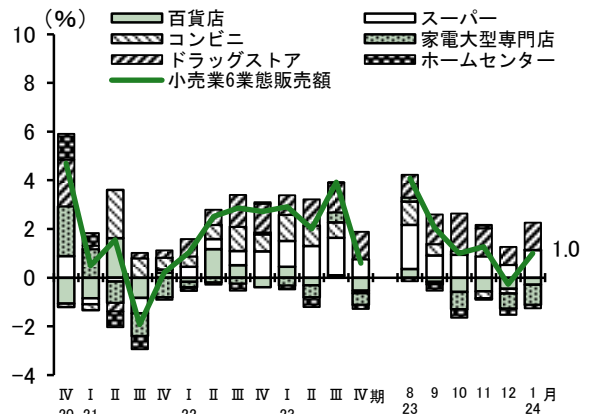
### ● 小売業6業態販売額 [対前年伸び率]

(全国) ドラッグストア、スーパーなどを中心に増加し、26カ月連続で前年比プラス（前年同月比+2.3%）。食品等を中心に店頭価格の上昇が売上を下支えているものの、物価上昇による節約志向から購入点数は減少している。また、暖冬により、冬物衣料や暖房器具等が低調に推移し、伸びが鈍化した。



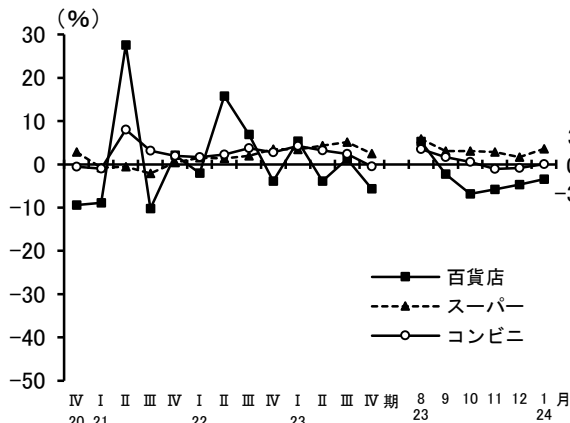
注：1. 全店舗ベース 2. 小売業6業態は、百貨店、スーパー、コンビニエンスストア、家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンター  
資料：経済産業省「商業動態統計月報」

(中国) ドラッグストア、スーパーなどを中心に増加し、2カ月ぶりに前年比プラス（前年同月比+1.0%）。全国同様、物価上昇による節約志向から購入点数は減少している。暖冬により、冬物衣料や暖房器具等が低調だったものの、外出需要の増加から来客数が伸び、再び前年比プラスとなった。



### ○ 百貨店・スーパー・コンビニエンスストア販売額 [対前年伸び率]

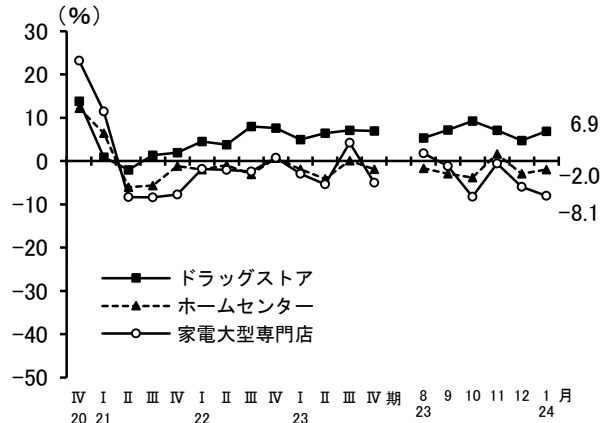
(中国)  
 ・百貨店は、一部店舗の売場面積縮小に伴う売上減のほか、物価高による節約志向などから生鮮食品等が減少し、5カ月連続で前年比マイナス（前年同月比▲3.4%）。  
 ・スーパーは、暖冬で鍋食材が低調だったものの、飲食料品の価格上昇が売上を押し上げたほか、衣料品の福袋等が良く売れ、19カ月連続で前年比プラス（同+3.6%）。  
 ・コンビニは、プレミアム付き商品券によるサービス売上の反動減が落ちついたほか、来客数の増加により飲料等が好調で、3カ月ぶりに前年比プラス（同+0.0%）。



注：全店舗ベース  
資料：経済産業省「商業動態統計月報」

### ○ ドラッグストア・ホームセンター・家電大型専門店販売額 [対前年伸び率]

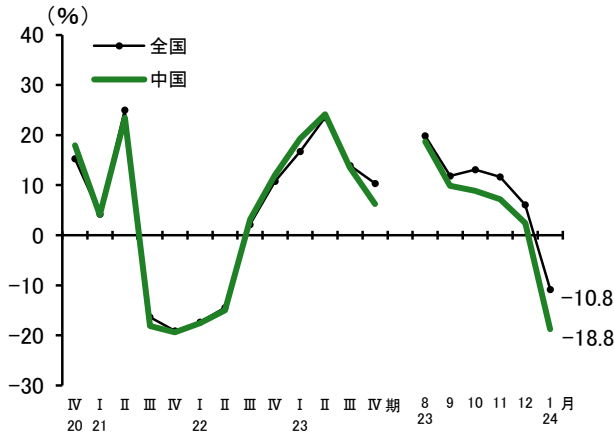
(中国)  
 ・ドラッグストアは、新店効果のほか、価格上昇の影響で食品等の売上が増加した。また、外出需要増から化粧品も好調で、25カ月連続で前年比プラス（前年同月比+6.9%）。  
 ・ホームセンターは、防災意識の高まりから防災用品に動きがみられたものの、暖冬により暖房用品等の季節商品が振るわず、2カ月連続で前年比マイナス（同▲2.0%）。  
 ・家電大型専門店は、前月に駆け込み需要のあったスマホが伸び悩んだほか、サポート終了に伴う前年売上の反動でパソコンが伸びず、6カ月連続で前年比マイナス（同▲8.1%）。



● 新車登録・届出台数(乗用車) [対前年伸び率]

(全国) 普通乗用車が増加したものの、軽、小型乗用車が減少し、17カ月ぶりに前年比マイナス(前年同月比▲10.8%)。一部メーカーの不正認証問題により、生産停止となった軽が低下したほか、他メーカーへの新車供給にも影響が及んだことで、小型も低下した。

(中国) 軽、小型、普通乗用車がいずれも減少し、17カ月ぶりに前年比マイナス(同▲18.8%)。全国同様、生産停止となった軽が低下したほか、他メーカーへの新車供給にも影響が及んだことで、小型も低下した。

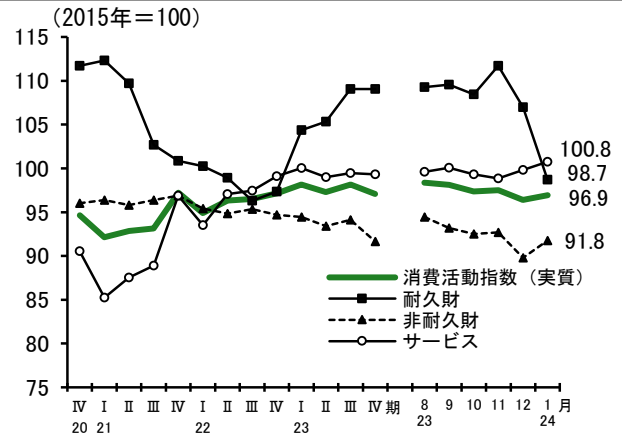


資料：中国運輸局「新車登録・届出状況」、  
(一社)全国軽自動車協会連合会「軽自動車新車販売統計」

● 消費活動指数(実質)

(全国) 消費活動指数(季節調整済)は96.9(前月比+0.6%)と2カ月ぶりに前月を上回った。

- ・耐久財は、暖冬の影響でエアコン等が低調だったほか、一部メーカーの生産停止等で自動車が低下し、前月を下回った。
- ・非耐久財は、暖冬の影響で春物衣料等が好調に推移したことなどにより、前月を上回った。
- ・サービスは、暖冬の影響や好天が多かったことなどから外出機会が増加し、飲食や宿泊を中心に増加した。



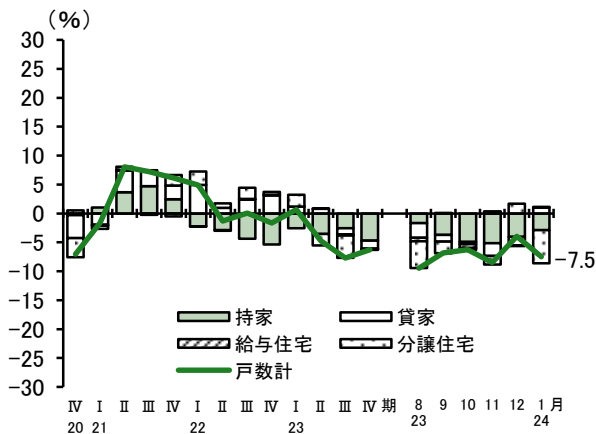
注：1. 季節調整済指数  
2. 消費活動指数の形態別ウエイトは、耐久財8.9、非耐久財40.5、サービス50.7  
資料：日本銀行「消費活動指数」

3. 住宅投資(1月)

新設住宅着工戸数は、全国、中国ともに前年を下回った。

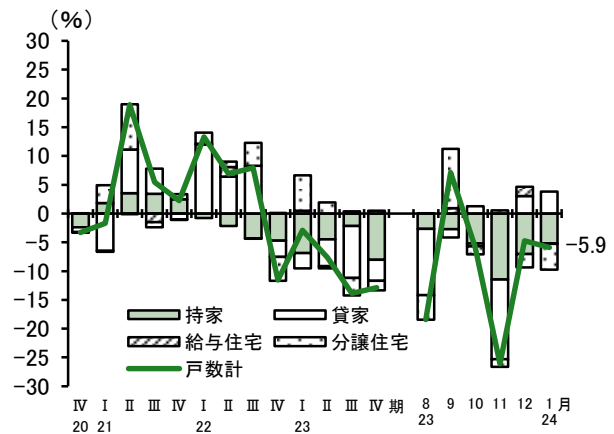
● 新設住宅着工戸数 [対前年伸び率]

(全国) 貸家、給与住宅が増加したものの、分譲住宅、持家が減少し、8カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲7.5%)。



注：持家、貸家、給与住宅、分譲住宅は、新設住宅着工戸数の対前年伸び率に対する利用関係別寄与度  
資料：国土交通省「建築着工統計調査報告」

(中国) 貸家が増加したものの、持家、分譲住宅、給与住宅が減少し、4カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲5.9%)。



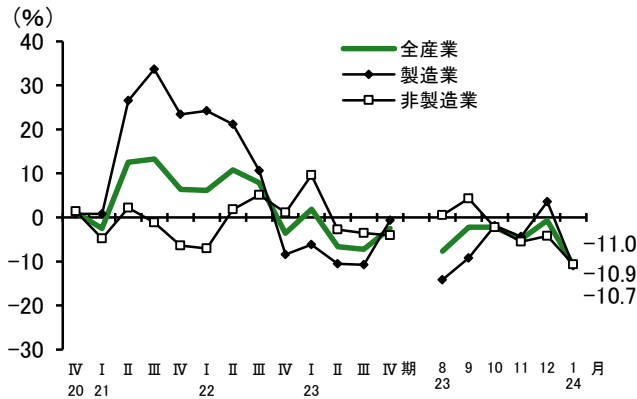
#### 4. 設備投資・公共投資（1月）

機械受注（全国）は、製造業、非製造業ともに減少し、前年を下回った。  
公共工事請負額は、全国、中国ともに前年を上回った。

##### ● 機械受注額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・ 11 カ月連続で前年比マイナス（前年同月比▲10.9%）。
- ・ 製造業（同▲11.0%）は、食品製造業、鉄鋼業などが増加したものの、電気機械、化学工業などが減少し、2 カ月ぶりに前年比マイナス。
- ・ 非製造業（同▲10.7%）は、運輸業・郵便業、リース業などが増加したものの、建設業、金融業・保険業などが減少し、4 カ月連続で前年比マイナス。



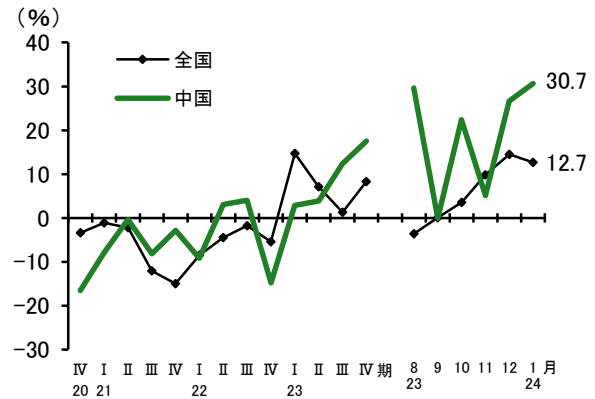
注：機械受注額は民需の合計であり、全産業、非製造業とも船舶・電力を除く数値

資料：内閣府「機械受注統計調査報告」、北海道建設業信用保証㈱、東日本建設業保証㈱、西日本建設業保証㈱「公共工事動向」

##### ● 公共工事請負額 [対前年伸び率]

(全国) 市区町村、都道府県、地方公社、独立行政法人等、その他公共団体、国からの発注が増加し、5 カ月連続で前年比プラス（前年同月比+12.7%）。

(中国) 大型受注があったことなどにより、その他公共団体、国からの発注が増加したほか、独立行政法人等、県からの発注も増加し、4 カ月連続で前年比プラス（同+30.7%）。

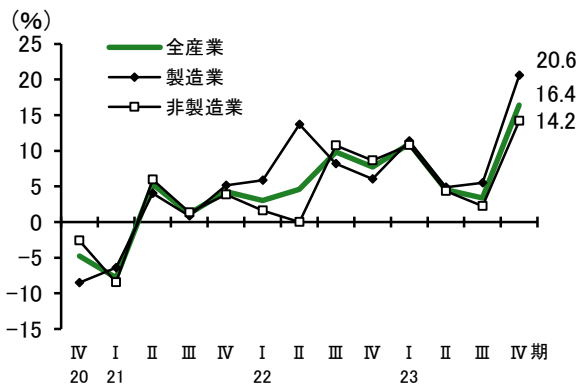


##### ● 法人企業統計（2023年10-12月期）

設備投資額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・ 10-12 月期の設備投資額は、11 四半期連続の前年比プラス（前年同期比+16.4%）。
- ・ 製造業は11 四半期連続のプラス（同+20.6%）。
- ・ 非製造業は6 四半期連続のプラス（同+14.2%）。



注：1. 金融業・保険業を除くベース

2. ソフトウェア投資額を含む

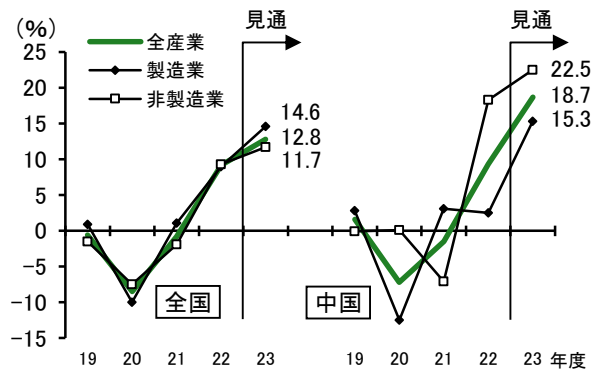
資料：財務省「法人企業統計」

##### ● 企業短期経済観測調査（日銀短観 2023年12月調査）

設備投資額 [対前年伸び率]

(全国) 2023 年度の設備投資は、2 年連続で前年を上回る見通し（前年度比+12.8%）。製造業、非製造業ともにプラス。

(中国) 2023 年度の設備投資は、2 年連続で前年を上回る見通し（同+18.7%）。製造業、非製造業ともにプラス。



注：1. 企業短期経済観測調査（短観）は四半期ごとに公表されている

2. 土地投資額を含む、ソフトウェア投資額と研究開発投資額は含まない

資料：日本銀行「短観（全国企業短期経済観測調査）」、日本銀行広島支店「企業短期経済観測調査結果の概要」

## 5. 輸出・輸入(1月)

輸出金額は、全国は前年を上回ったものの、中国は前年を下回った。

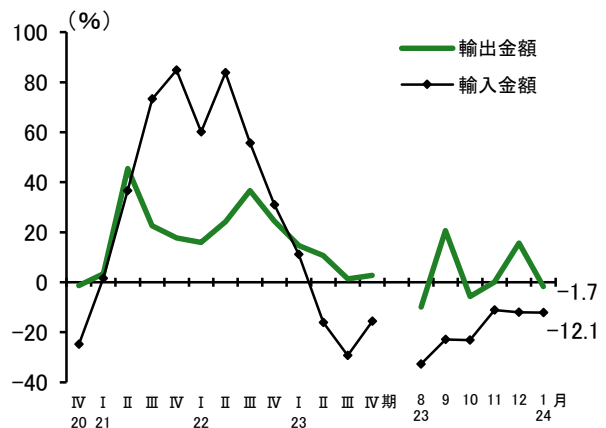
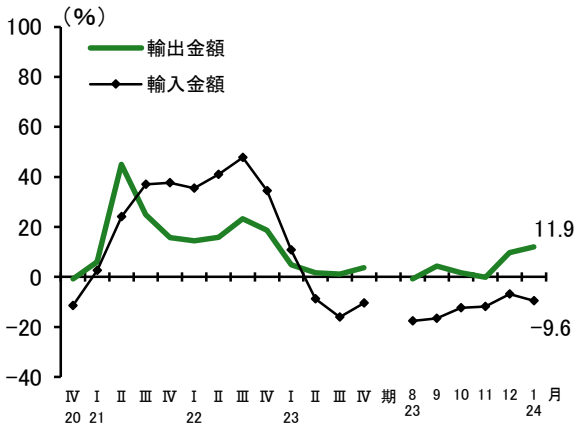
### ● 輸出・輸入金額 [対前年伸び率]

#### (全国)

- ・輸出金額は2カ月連続で前年比プラス(前年同月比+11.9%)。品目別にみると、欧米向けに自動車が増加したほか、半導体等製造装置も伸長した。また、春節が昨年は1月下旬、今年は2月中旬だったことから、中国向けの前年比が押し上げられた。
- ・輸入金額は10カ月連続の減少で前年比マイナス(同▲9.6%)。品目別にみると、資源価格の下落等により、石炭、液化天然ガス、原油などが減少した。

#### (中国)

- ・輸出金額は3カ月ぶりに前年比マイナス(前年同月比▲1.7%)。品目別にみると、半導体等製造装置や非鉄金属などが増加したものの、欧米向けを中心にこれまで好調だった自動車が、車種切り替えの影響により減少した。
- ・輸入金額は10カ月連続の減少で前年比マイナス(同▲12.1%)。資源価格の下落等により、石炭、原油、石油製品(揮発油等)などが減少した。



注: 1. 輸出金額、輸入金額は円ベース 2. 輸出確報; 輸入速報 (9桁)  
資料: 財務省「貿易統計」、神戸税関「中国圏・各県貿易統計」

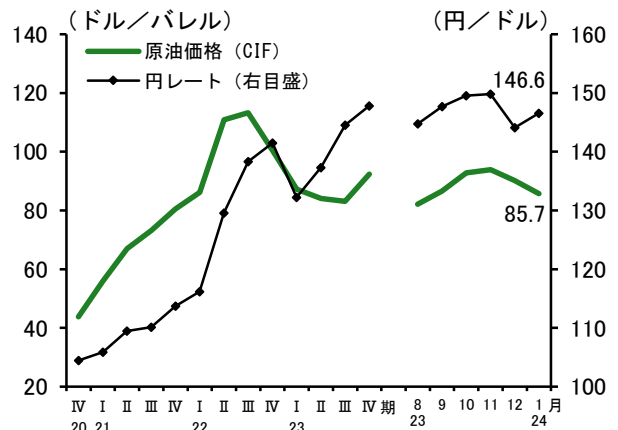
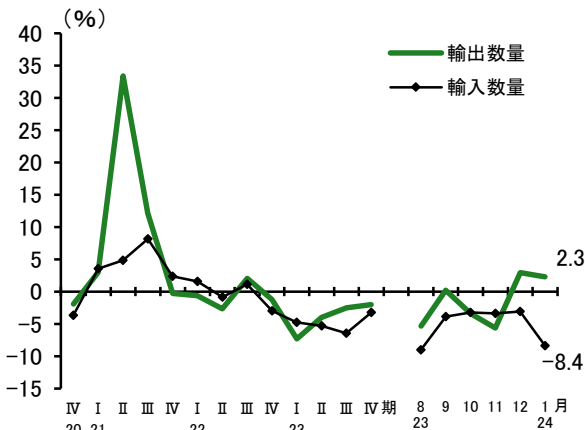
### ● 輸出・輸入数量 [対前年伸び率]

#### (全国)

- ・輸出数量は2カ月連続で前年比プラス(前年同月比+2.3%)。
- ・輸入数量は15カ月連続で前年比マイナス(同▲8.4%)。

### ● 原油価格・円レート

- ・原油価格は85.7ドル/バレルと前年に比べ2.6ドル低下(前月に比べ4.5ドル低下)。
- ・円レートは146.6円/ドルと前年に比べ16.4円の円安(前月に比べ2.5円の円安)。



注: 1. 輸出数量、輸入数量とも2015年=100とした指数 2. 輸出確報; 輸入速報 (9桁) 3. 原油価格は全日本通関 CIF 価格  
4. 円レートは東京外国為替市場の銀行間中心レートの月中平均値  
資料: 財務省「貿易統計」

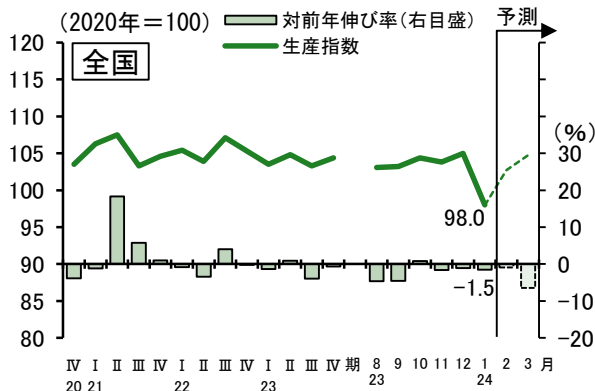
## 6. 生産動向 (1月)

全国、中国ともに、横ばい圏内ながら、一部に弱さがみられる。

### ● 鉱工業生産指数 (総合)

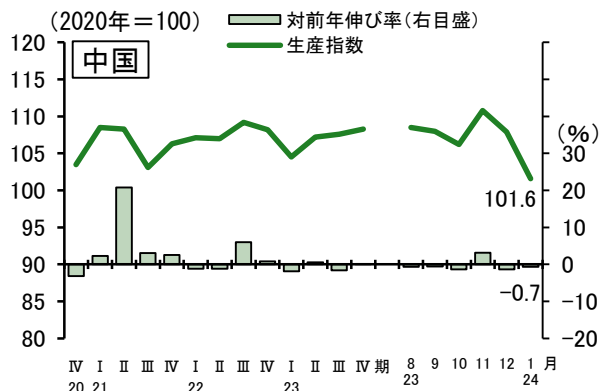
#### (全国)

- 生産指数 (季節調整済) は、98.0 (前月比▲6.7%) と2カ月ぶりに前月を下回った。一部メーカーの工場稼働停止の影響で自動車が大きく低下したほか、前月に大型受注があった反動で、汎用・生産用・業務用機械が低下した。
- 生産指数 (原指数) は前年同月比▲1.5%と3カ月連続でマイナスとなった。



#### (中国)

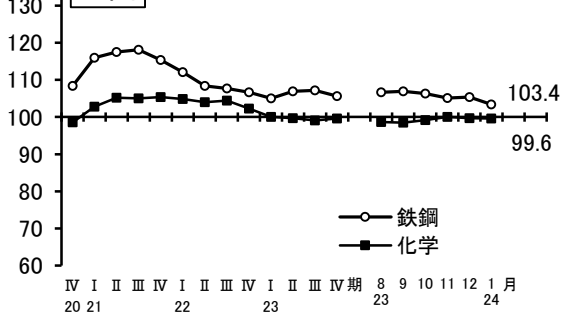
- 生産指数 (季節調整済) は、101.6 (前月比▲5.8%) と2カ月連続で前月を下回った。半導体等製造装置の生産増などから、汎用・生産用・業務用機械が上昇したものの、一部メーカーの車種切り替えの影響で自動車が大きく低下した。
- 生産指数 (原指数) は、前年同月比▲0.7%と2カ月連続でマイナスとなった。



### ● 鉱工業生産指数 (素材)

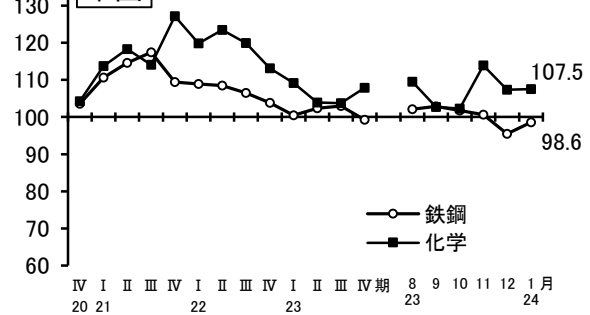
(2020年=100)

#### 全国



(2020年=100)

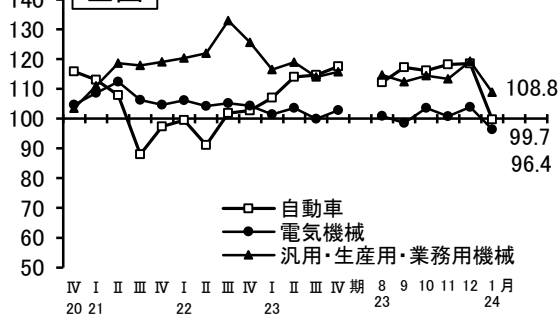
#### 中国



### ● 鉱工業生産指数 (機械)

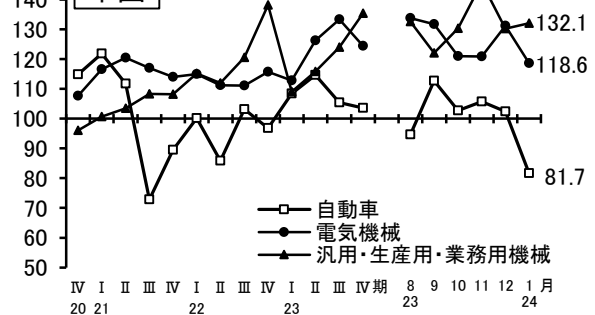
(2020年=100)

#### 全国



(2020年=100)

#### 中国



注：1. 生産指数は季節調整済指数 2. 生産指数の対前年伸び率は原指数による 3. 予測値は「製造工業生産予測調査」の製造業の値を基に算出  
 4. 中国の最新月は速報値 5. 全国は2023年4月確報分、中国は2024年1月速報分より、鉱工業指数の基準年が2015年から2020年に改定された  
 6. 「電気機械」は全国では1995年基準の業種分類を適用 (電気機械工業、情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業の合計)  
 7. 「汎用・生産用・業務用機械」は全国では「旧分類」はん用・生産用・業務用機械工業、中国では「汎用・業務用・生産用機械工業」  
 8. 「自動車」は中国では「自動車(乗用車・トラック・主要部品)」

資料：経済産業省「鉱工業(生産・出荷・在庫)指数確報」「製造工業生産予測調査」、中国経済産業局「中国地域鉱工業生産動向」

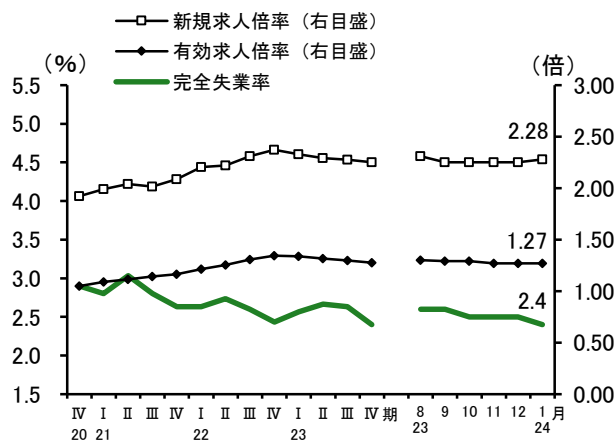
## 7. 雇用情勢(1月)

全国、中国ともに、改善の動きが弱まっている。

### ● 完全失業率、有効求人倍率、新規求人倍率

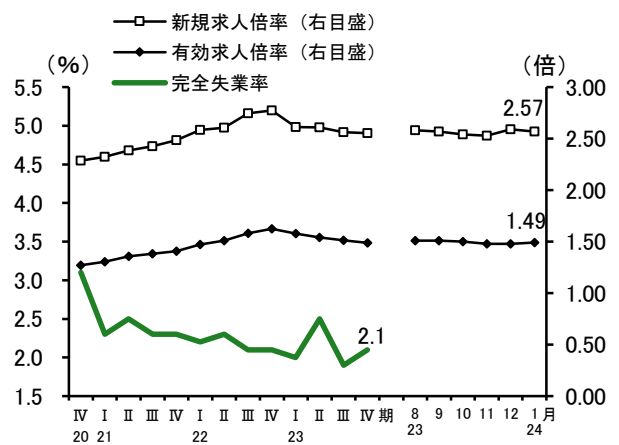
(全国)

- ・完全失業率は2.4% (前月差▲0.1ポイント) と3カ月ぶりに低下した。
- ・有効求人倍率は1.27倍 (同±0.00ポイント) と横ばい。
- ・新規求人倍率は2.28倍 (同+0.03ポイント) と5カ月ぶりに上昇した。

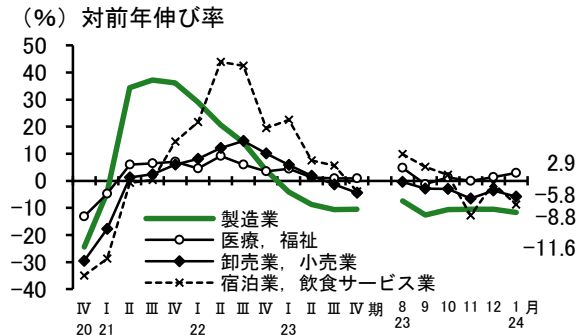


(中国)

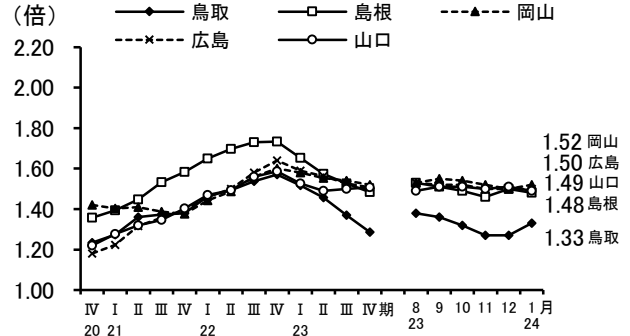
- ・有効求人倍率は1.49倍 (前月差+0.01ポイント) と14カ月ぶりに上昇した。
- ・新規求人倍率は2.57倍 (同▲0.02ポイント) と2カ月ぶりに低下した。



主要産業における新規求人数の推移 (全国)



有効求人倍率の推移 (中国5県)



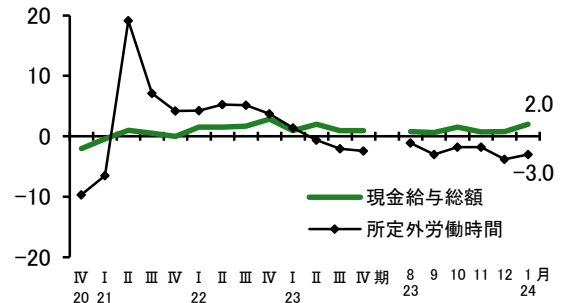
注：完全失業率の月次、有効求人倍率、新規求人倍率は季節調整値、完全失業率の四半期は原数値  
資料：総務省「労働力調査報告」、厚生労働省「職業安定業務統計」

### ● 現金給与総額、所定外労働時間

(全国)

- ・現金給与総額は25カ月連続で前年比プラス (前年同月比+2.0%)。
- ・所定外労働時間は前年比マイナス (同▲3.0%)。うち製造業は13カ月連続で前年比マイナス (同▲6.9%)。

(%) 対前年伸び率



注：1. 事業所規模5人以上の指数 (2020年=100) の対前年伸び率 2. 最新月は速報値  
資料：厚生労働省「毎月勤労統計調査」